

漁協女性部活動の活性化

(水産加工品製造販売を中心とした活動支援)

大島支庁 林務水産課

【背景・目的】

奄美大島においては、亜熱帯海域に生息する多種多様な魚介藻類が生産されている。そうした魚介藻類のうち商業価値の高い資源は島内外で消費され漁家収入に繋がっているが、島外で認知度の低い資源を中心に低利用の魚介藻類も存在している。

漁協女性部は、そうした低利用やこれまで未利用だった魚介藻類の加工品開発を通じて魚食の普及と漁家経営の安定に努めてきた。

しかし、個々の漁協女性部の活動規模は小さく、活動範囲は地域に限定され女性部同士の情報交換の場もない状況にあった。

26年度は、各漁協女性部の横の交流を図り、情報交換を促すことで女性部活動の活性化を図ることを目的とした。

【普及の内容・特徴】

水産物の販売イベントへの共同参加や3漁協女性部合同の視察及び研修を通して、横の交流を図り、情報交換を促すことを普及の柱とした。

【成果・活用】

平成26年10月26日、鹿児島市マリンポートで開催された「かごしまお魚まつりシーサイドピクニック」に大島本島3漁協女性部とともに参加した。同じ販売ブースで互いに協力しながら、それぞれの女性部が製造した水産加工品を販売した。協力して販売することにより、それぞれの加工品に対する知識と情報を共有するとともに仲間意識の醸成に効果があった。

平成26年10月25日、27日「かごしまお魚まつりシーサイドピクニック」に併せて鹿児島市おいどん市場と市来えびす市場の合同視察を実施した。おいどん市場では試食販売する奄美漁協笠利女性部員と意見交換を行い、互いに刺激しあう関係を構築した。

平成27年2月19日、名瀬漁協漁民研修室で名瀬漁協女性部と奄美漁協女性部を含めた加工販売担当者の研修会を実施した。講演後の意見交換において、実例の紹介と互いにアドバイスしあい、交流を深めた。

こうした成果は、27年度に実施を計画しているバスツアーにおいて共同で制作を企画する「ツアー弁当」へ結びつく波及効果を生んだ。

また、これまで店舗を持たなかった名瀬漁協女性部が27年4月から直売所を運営し、加工品の販売と地魚料理提供を手がけるようになった。

さらに奄美漁協住用女性部も直売所開設に向け具体的取り組みを進めている。



写真1 協力して準備



写真2 準備完了，自慢の加工品が並ぶ



写真3 珍しい奄美の産品に関心が集まる



写真4 市来えびす市場の視察



写真5 研修会風景



写真6 女性部員たちも熱心に聞き入る